

V 学長諮問委員会

学事協議会

1. 構成員

- [学長] 井部俊子
- [学部長・研究科長] 菱沼典子
- [教務部長] 麻原きよみ
- [学生部長] 菱田治子
- [図書館長] 中山和弘
- [研究センター長] 山田雅子
- [事務局長] 山口喜義

2. 役割

学長の諮問機関として本学の教育運営に係る問題を協議する。(学事協議会規程第1条)

3. 活動内容

2011年度の学事協議会は15回開催された。

主な協議事項

- 1) 2011年度聖路加看護大学活動計画
- 2) 教員の臨床能力維持向上のための非常勤勤務
- 3) 東日本大震災被災学生への緊急支援策
- 4) イリノイ大学との学術交流協定
- 5) 聴覚障害学生への支援
- 6) 来年度オリゼミ日程
- 7) 大学の世界展開力強化事業応募
- 8) 教員の配置
- 9) 将来構想委員会の発足
- 10) 東北3県受験生発掘方法(KK ゾンネンシャイン財団奨学金)
- 11) 学内無線LANの設置
- 12) 2011年度創立記念行事・講演会
- 13) 次年度役職者(教務部長、図書館長)
- 14) 採用人事・昇格人事
- 15) 2012年度委員会計画
- 16) ミセスセントジョン記念教育基金受給者承認
- 17) 組織図
- 18) 教員の実践活動調査
- 19) 予算編成の仕組み
- 20) シミュレーター教育プログラム・パラマウントベッドとの共同事業

21) 国際交流委員会規程

4. 課題

将来を見据えた学事関係事項を計画的に検討協議していくことが課題である。

自己評価委員会

1. 構成員

- [委員長] 菱沼典子
- [委員] 井部俊子、麻原きよみ、菱田治子、中山和弘、山田雅子、山口喜義
- [事務局] 稲田昇三(総務課)

2. 役割・職務

聖路加看護大学自己点検・評価に関する規程において、自己評価委員会の設置が定められている。定期的な自己点検・評価の実施と学長への報告を任務とする。

本年度の職務は下記のとおりであった。

- 1) 2010年度年報の発行
- 2) 2010年度の年報にある課題の検討とその改善案を考える
- 3) 2011年度の年報の準備
- 4) 教職員の目標設定とその達成度評価の実施

3. 活動内容

11回の会議を開催し以下の内容に取り組んだ。

- 1) 2010年度年報を発行した(2011年5月)。
- 2) 2010年度年報に記載された各課題を点検し、検討した(一部次年度へ繰り越している)。
- 3) 2011年度年報の準備を行った。
- 4) 教職員の目標設定とその達成度評価を実施した(資料1)。
- 5) 2007年度の大学基準協会大学評価ならびに認証評価において助言となったシラバスに関する指摘に対し文書による改善報告を行い、認められた(資料2)。
- 6) 大学基準協会から「認証評価に対する評価の調査」を受けた。
- 7) 全学的取り組みとなった将来構想委員会について、学事協議会と共同してテーマを設定した。

8) 学士編入生の卒後の状況の追跡調査を計画し、実施中である。

で指摘されている課題を含め、課題の整理ができたが、具体的な解決策にするには時間がかかっている。
学士編入卒業生の追跡調査は課題となっている。

4. 課題

将来構想委員会が立ち上がるのに際し、これまで年報

5. 資料

2011 年度重点目標・達成度評価 評価者および実際のタイムスケジュール

[教員]

	評価者	1 次評価者	2 次評価者	提出先	本人に返却
教授		学部長	—		
領域の長がいる准教授・助教		領域の長	学部長	学長	
領域の長がいない准教授・助教		学部長	—		
年度初めの目標設定		5/27	6/10	6/18	
提出期限	年度半ばの報告	9/16	(学部長保管)		
	年度末の評価	2012/2/29	3/14	3/23	次年度目標設定までに

[職員]

	評価者	1 次評価者	2 次評価者	提出先	本人に返却
課長、係長（課長不在の部署）		事務局長	—	学 長	
係長・一般職員		課 長	事務局長		
年度初めの目標設定		5/27	6/10	6/24	
提出期限	年度半ばの報告	9/16	(事務局長保管)	—	
	年度末の評価	2012/2/29	3/14	3/23	次年度目標設定までに

2007年に大学基準協会による認証評価の際に受けた「助言」に対する「改善報告」を2011年6月行い、承認された。

改善報告書

大学名称 聖路加看護大学 (評価申請年度 平成 19 年度)

1. 助言について

PDF

No.	種別	内容
1	基準項目 指摘事項	1. 教育内容・方法 (1)教育方法等 1) 看護系教育の特性からみて、シラバスに学習目標の記載欄がないこと、また、教員間で記述内容に精粗があることについて、改善が望まれる。
	評価当時の状況	シラバスに記載項目は「概要」「教科書」「参考書」「評価方法」で、「概要」に目的や目標を含めて記載していた。
	評価後の改善状況	20 年度に「概要」を「目標」「内容」「方法」に細分化した。さらに 22 年度より、目標に科目の位置づけを記載しにくいため「目的」の記載欄を設けた。現在の記載項目は、「目的」「目標」「内容」「方法」「教科書」「参考書」「評価方法」である。内容の精粗については、項目を細分化したこともあり、改善している。
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等	<大学基準協会利用欄> 様所見
	改善状況に対する評定	1 2 3 4 5

聖路加看護大学
学長 井 野 俊 子 殿

財団法人 大学基準協会
会長 駒 田 真 樹

PDF 貴大学の「改善報告書」の検討結果について (通知)

拝啓に際し、本年度、貴大学よりご提出頂きました「改善報告書」につきましては、大学評価委員会において慎重な審議を行い、別紙の通り検討結果をとりまとめましたので、ここにご通知申し上げます。

<改善報告書検討結果(聖路加看護大学)>

[1] 概評
2007 (平成 19) 年度の本協会による大学評価に際し、問題点の指摘に関する措置として 1 点の改善報告を求めた。今回提出された改善報告書からは、これの措置を真摯に受け止め、着実に改善に取り組んでいることが確認できる。また、その成果も満足すべきものである。
貴大学の掲げる目的・目標の達成に向けて今後も引き続き努力することを期待する。

[2] 今後の改善経過について再度報告を求めた事項
なし

頁 上

研究倫理審査委員会

1. 構成員

[委員長] 亀井智子

[委員] 桑原博道、小松康宏、白木和夫、関正勝
鶴若麻里、林 直子、廣瀬清人、松谷美和子、山田雅子

2. 役割・職務

聖路加看護大学研究倫理審査委員会規則に則り、聖路加看護大学研究倫理審査委員会内規ならびに研究倫理審査委員会小委員会運用細則の第一条（目的）を達成すべく、研究計画の倫理審査を行う

3. 活動内容

計12回の研究倫理審査委員会を開催し、提出された研究計画書について審査を行った（表1、表2参照）。

また、研究倫理審査委員会規則の改正、同意書と研究協力断り書の宛先の明記、申請書の改正、申請チェックリストの改正を行った。4月13日に研究倫理セミナーを開催した。

4. 課題

介入研究に関し予備審査制度を開始したこともあり、前年度よりも新規審査の申請が約1割増加し、新規審査件数が100件となった。その反面、審査申請書、および研究計画書、添付する資料の記載不備、審査を申請する研究種類の間違い等が多いため、審査に支障が生じることがあった。研究者への啓発を行う必要がある。

本学の教職員、大学院生、研究生が在職・在学中に収集・生成したデータの帰属をどこに置くかについては継続審議となっている。

表1 審査件数

	開催月日	出席委員数	新規申請			期間延長・一部修正等	審査件数 (新規のみ) 計
			通常審査	簡易審査	予備審査		
1	4月19日	10名	9件	一件	一件	6件	9件
2	5月17日	7	7	—	1	3	8
3	5月24日	7	6	—	—	—	6
4	6月21日	9	11	2	1	2	14
5	7月19日	8	8	—	—	10	8
6	9月20日	8	7	—	1	7	8
7	9月27日	7	6	1	—	—	7
8	10月18日	7	3	—	—	2	3
9	11月15日	10	8	1	1	2	10
10	12月20日	9	9	1	—	—	10
11	1月17日	8	5	—	1	—	6
12	3月21日	9	9	2	—	—	11
			88 〔内訳〕 教員：29 博士前期：29 博士後期：29 その他：1	7 〔内訳〕 教員：5 博士前期：2 博士後期：1 その他：—	5 〔内訳〕 教員：1 博士前期：2 博士後期：2 その他：—	37	10

表2 審査結果

審査結果	承認	条件付き承認	保留	不承認	簡易審査不適格
通常審査	66	19	2	2	—
簡易審査	7	—	—	—	—
予備審査	5	—	—	—	—
計	78	19	2	2	—

人権委員会

1. 構成員

[委員長] 田光信幸（日本聖公会東京教区、聖マーガレット教会司祭）

[委員] 松谷美和子(研究科委員会)、亀井智子(研究倫理審査委員会)、菱田治子(教授会)、岩間節子(評議員会)、細谷亮太(聖路加国際病院)、(事務局) 稲田昇三

2. 役割(規程)

人権委員会規程第2条

- 1) 本学におけるセクシュアル・ハラスメントやアカデミック・ハラスメント及びその他学習・研究・労働に関連して教職員、学生および研究者等に生じる権利・利益に関する諸問題に関する事項を審議すること
- 2) 本学における学内人権事項に関する苦情を受け付け、対応すること
- 3) 本学における学内人権事項に関する必要な措置を学長に具申すること
- 4) その他、本学における学内人権事項の解決のために必要な事項を実施すること

3. 活動内容

1) 委員会開催

今年度は申立がなく、委員会の開催はなかった。

4. 課題

人権委員会規程に付随して、学内人権事項に関して申し立てる方法について「運用細則」を定め、申立の様式も明示している。また「ストップ・ハラスメント!」と題するリーフレットを新入学生・教職員に配付している。2004年に委員会が設置され「申立」の受け入れを開始したが、申立の実績は過去に1回2件のみである。学生・教職員の相談窓口は、学生部の「よろず相談」、健康管理室での相談やカウンセリングなどが準備され、また個別の教員への相談も行われているが、訴えを持ち込む学内最後の「裁定」を行う窓口として存立の意義をもつ。

5. 参考データ

なし

発明委員会

1. 構成員

[委員長] 山口喜義

[委員] 井部俊子

[事務局] 田口 瞳

2. 役割・職務(聖路加看護大学発明規程)

教員等が行った発明等の取扱その他知的財産権に関する事項を審議する。

3. 活動内容

発明等の届け出があれば速やかに委員会を開催し、知的財産権継承の可否および出願手続き可否の審議を行う。出願が決定したものは委員会担当者が弁理士に出願依頼の連絡および請求書受取や支払依頼等の会計処理を行い、発明者は出願に必要な書類を弁理士と相談して準備提出する。

今年度は、12月9日に委員会を開催した。

- 1) 特許出願公開中の特願2009-44938(ケア質評価Webシステム)の審査請求が発明者からあり、審査請求を行うこととなった。

ただし、審査請求をしても特許が得られない可能性もある。

- 2) 実用新案「転倒事故予防教育用住宅模型」の継続の可否が審議され、発明者に確認し必要性があれば継続することを決めた。(後日、確認がなされ継続手続きが行われた。)

4. 課題

発明、実用新案等に該当するかどうかの事前相談できる特許事務所を用意しておく必要がある。

審査請求事務担当者のミスで審査請求が期日までに行われなかった事例が発生した。複数による確認作業を行うなどの体制整備が必要である。

将来構想委員会

1. 構成 および 2. 役割・任務

全常勤教職員が6つテーマについて各班に分かれて検討を重ねた。

班	テーマ	教員	職員
①	大学のレベルアップと学生確保をするにはどうしたらよいか ・学生数 ・教室 ・E-learning ・新たなコースの可能性	井部俊子、菱田治子、渡部尚子、大久保暢子、梶井文子、ジェフリー・ハマン、小黒道子、浅井宏美、池口佳子、留目宏美	高橋昌子、松本直子
②	大学院のあり方について ・専門課程の枠組みの設定について ・学費について ・大学院大学にすべきか	麻原きよみ、中山和弘、柳井晴夫、白木和夫、伊藤和弘、松谷美和子、森明子、亀井智子、田代順子、小野智美、片岡弥恵子、飯岡由紀子、有森直子、堀成美、小野若菜子、八重ゆかり	森川雪絵
③	教育と研究のための実践フィールド（附属施設など）をもつべきか	山田雅子、菊田文夫、宇都宮明美、五十嵐ゆかり、蛭田明子、櫻井文乃、山本由子、田代真理、本田晶子、大畑美里、高橋恵子	中島薫
④	本学を教職員にとって魅力的な職場にするにはどうしたらよいか	林直子、大森純子、伊東美奈子、蜂ヶ崎令子、大橋久美子、倉岡有美子、眞鍋裕紀子、角田秋、大橋明子、實崎美奈	進藤務、櫛田智恵美、森島久美子、高木裕也、天岡幸、豊島景子、中村寧孝、平良智子、田口瞳
⑤	経営的に成り立つには何を考えるべきか ・他大学との連携を含める	及川郁子、萱間真美、廣瀬清人、鶴若麻理、中村綾子、川端愛、小林真朝	山口喜義、島田裕司、稲田昇三、高鳥直人、畠山小巻、金澤淳子、木暮聖子
⑥	本学の情報戦略について	菱沼典子、平林優子、江藤宏美、佐居由美、大坂和可子、木戸芳史、長松康子	佐藤晋巨、福田昌

3. 活動内容

それぞれの班別に6回のミーティング（第1回2011年9月20日、第2回10月25日、第3回11月29日、第4回12月20日、第5回2012年1月31日、第6回2月28日）で検討し、その結果を中間報告として、3月6日にファカルティ・スタッフミーティングの中で発表、質疑応答を行った。

各班から中間報告として提案された主な項目

- ① 大学のレベルアップと学生確保——アドミッション活動の強化、学部教育における国際性の強化、卒業後の看護継続教育システムの開設、市民向け生涯学習コースの開設などの提案
- ② 大学院のあり方——大学院進学における入学者へのメリット、充実した魅力あるコース内容、学部・大学院のコースモデル概念についての提案
- ③ 教育と研究のための実践フィールド——シミュレ

ーション教育の実践、Women-centered Care の充実、小規模多機能型居宅介護事業の立ち上げ、「らかなび」の機能拡充、研究者や教員を目指す学生の大学院進学を促すことを提案。シミュレーターを使ったパラマウントベッド㈱との看護教育共同研究事業が実現することになり、同社との間に契約書を取り交わした（2月29日）。

- ④ 魅力的な職場にするには——FS ミーティングでの意見交換、企業・他大学視察等を教職員全体へ情報提供および学内研修を検討、業務仕分による合理化・業務改善。
- ⑤ 経営的に成り立つには——短・中・長期に分けて経営改善案を抽出、収入増加・経費削減と不採算事業の見直しに基づく大学の将来構想計画案・将来構想図を提案
- ⑥ 情報戦略について——情報発信統括部署の設立、

IT関連のスペシャリストの配置など新しい発送を提案

4) その他の奨学生の選考
(奨学生選考委員会規程第3条)

4. 課題

- 1) 提案内容の実現可能性の吟味
- 2) 全体統合と優先順位の検討
- 3) 聖路加国際病院の将来構想との連動

3. 活動内容

- ・計7回の委員会を開催し、提出された各奨学生申請書について選考した(資料参照)。日本学生支援機構緊急採用については、指導教員からの支援もあり緊急採用に至った。今後も学生部を通じ、教職員間の連携を強め学生支援へと繋げたい。
- ・1月19日(木)創立記念行事にて奨学金給付者と奨学生との懇談会を設け実施した。
- ・ウパウパ奨学金について寄付者の意向により、一部規程変更するに至った。

奨学生選考委員会

1. 構成

[委員長] 菱田治子

[委員] 井部俊子、菱沼典子、麻原きよみ、天岡幸(学生課)

2. 役割・職務

聖路加看護大学奨学生選考委員会規程により選考委員会は下記について審議する。

- 1) 学校法人聖路加看護学園貸与奨学金の奨学生の選考および貸与奨学金の運用
- 2) 独立行政法人日本学生支援機構の奨学生の選考
- 3) 独立行政法人日本学生支援機構大学院第一種学資金返還免除候補者の選考

4. 課題

既存の給付・貸与奨学金不採用者を聖路加看護学園貸与奨学金にて支援することで、奨学金申請者全体の採用率と満足度は上がっていると思われるが、次年度以降、一般財団法人移行手続のため2つの給付財団から募集休止の申し出があり、その影響により本学園貸与奨学金貸与者が増加し資金減少が懸念され、さらなる資金確保の必要があると思われる。

5. 資料

表 奨学生選考委員会

	開催日	選考奨学金名	申請人数	推薦決定人数
1	4/26	茂木本家教育基金	1	1
		丸和育英会	10	2
		高島君子記念看護奨学基金	2	1
		岡村育英会	10	10
		守谷育英会	5	1
2	5/17	東京都看護師等修学資金	5	5
		日本学生支援機構学部定期採用	20	17
3	6/7	日本学生支援機構大学院定期採用	15	13
4	7/5	小澤道子記念奨学金	3	3
		聖路加同窓会奨学金	4	1
		聖路加看護学園貸与奨学金	8	7
5	7/19	青木奨学金	4	3
		日本学生支援機構緊急採用	1	1
6	11/1	ウパウパ奨学金	3	3
		未来の助産師基金	3	2
7	3/21	日本学生支援機構 特に優れた業績による返還免除候補者	8	4

危機管理委員会

1. 構成員

[委員長] 山口喜義（危機管理室長）

[委員] 井部俊子、菱沼典子、菱田治子、山田雅子、進藤 務

2. 役割・職務（聖路加看護大学危機管理規程）

危機情報の収集分析、想定される危機の洗い出し、評価と優先順位付け、対応策の検討、立案、実施、危機管理マニュアルの作成、見直し、学内周知、教職員・学生への防災教育・訓練の実施、災害対策本部の組織体制・活動内容の検討、災害対策本部の立ち上げ、緊急時情報伝達システムの整備 災害対策本部設置場所の確保、備品、通信機器の整備

3. 活動内容

1) 事務局危機対策会議（臨時）

東日本大震災の経験を生かして早急に防災対策を改善実現するために事務局職員が「安否確認システム」「防災マニュアル」「防災訓練」「備蓄品」の4班に分かれて精力的に具体策を検討した。6月から9月に10回の会議を開き、進捗状況の確認、案の検討を行い危機管理委員会に報告、対応可能なものは実

施、課題は委員会へ引き継いだ。

2) 委員会は5月から3月まで10回の委員会を開催した。

委員会審議により、安否確認システム導入、防災マニュアルの確定と実行体制（災害対策本部・2号館支部、統括班、安否確認班、施設・救出班、救護班、誘導・物資班）の整備、危機管理規定の改正、備蓄品600人3日分等の整備 消防訓練の実施、抜き打ち訓練実施等が行われた。

4. 課題

1) 安否確認システムへの携帯メール未登録をなくすることが当面の課題である。新入生はガイダンス時にその場で登録させるなどの措置を取って登録率を上げる。

2) 研究室の書棚転倒防止措置が一部のみとなっている。早急に変更する必要がある。

3) 大規模災害時には中央区や聖路加国際病院との連携が必要となる。病院の防災委員会へ大学メンバーも出席しているがまだ協議が進んでいない。

4) 休日・夜間の災害対策体制を整備する必要がある。

5. 資料

災害用備蓄品リスト2011

No.	種類	品目	数量		保管場所及び数量						
			個数	箱数	本館1F 事務室	本館1F 備蓄倉庫	本館1F 会議室	本館1F 健康管理室	本館5F 備蓄棚	2号館2F 備蓄倉庫	
1	災害対策本部用	携帯用ホワイトボード	3				2			1	
		ホワイトボード用マーカーペン	9				6			3	
		ホワイトボード用イレイサー	3				2			1	
		模造紙	10				10				
		クラフトテープ(白)	10		2		6			2	
		ガムテープ(白)	5				4			1	
		油性マーカー(赤・黒)	各5				4			1	
		ACタップ(4個口・5m)	2				2				
		AC延長コード(1個口・10m)	1				1				
		ランタン(単一仕様)	4				3			1	
		懐中電灯(単一仕様)	50				30	5		10	5
		LEDライト(3個:単3仕様)	3				2				1
		懐中電灯付き携帯ラジオ	10					6		2	2
		単1アルカリ乾電池	200				100	40		40	20
		地図類(3種類各1冊)	6					3			3
		メガホン	5					4			1
		高出カトランシーバー	3			3					
		携帯電話	4			4					
		公衆無線対応サービス	1			1					
		無線用アンテナ(USB-WiFi)	3			3					
		無線用アンテナ(USB-WiFi)	3					3			
		パソコン	1			1					
		テレビ	2			1					
テレビ接続ケーブル	2					2					
ガスパワー発電機	1				1						
カセットボンベ(発電機用ガス)	30				30						
2	生活用	携帯カイロ	100			100					
		消毒液(500ml) 10本入	70			33			25	12	
		消毒液用スプレーヘッド	70			33			25	12	
		給水用ポリタンク	5			4				1	
		ゴミ袋(青色:90L)	600	3		200			200	200	
		ポリ袋(赤色:300mm×400mm)	200	1		200					
		簡易トイレ用ペナリ袋(5枚入り)	600	3		200			200	200	
		携帯トイレ(1枚)	600	3		200			200	200	
		ポータブルトイレ(便座)	7			3			2	2	
		マスク(200枚入り)	10			1600				400	
		生理用品	適量			適量					
		ティッシュ	25			15		5		5	
3	食糧用	1Dayレスキュー(※)	600	150		240			160	200	
		水(2Lペットボトル)	100	16		48	2		30	20	
		乾パン(蓋付き)	600	25		264	24		240	72	
		アルファ米(1ヶ-15袋入)	600	40		285	15		225	75	
		水(500mlペットボトル)	100			96	4				
		サランラップ	6				4			2	
		紙皿類	240	3			160			80	
		透明カップ	1,500	50		720	180		300	300	
4	救護用	カセットコンロ	2			2					
		担架(2つ折りタイプ)	2			1			1		
		医薬品類(別添)	-					別添	別添		
5	その他	ロープ	3			2					
		リアカー	1		1※						
		メタルラック	2			2					
		本館備蓄倉庫				○					
								2号館備蓄倉庫	○		

災害用備蓄品リスト2011 (No.4救護用品詳細)

No.	種類	保管場所	品名	数量	納品予定	備考
4	救護用	健康管理室	救急箱セット	1	完了	
			汚物缶	1	完了	
			ふた付きバケツ	2	完了	
			スプリント	2	完了	
			2つ折り担架(簡易担架)	2	大学備品	その他、地下に1台あり
			車椅子		大学備品	健康管理室に1あり
			ベット		大学備品	健康管理室に3あり
			松葉杖		大学備品	健康管理室に2あり
			血圧計		大学備品	健康管理室に6あり
			聴診器		大学備品	健康管理室に3あり
			洗浄ボトル		大学備品	健康管理室に4あり
			毛布		大学備品	アーツルーム
			シーツ		大学備品	健康管理室15、アーツルーム
			救急箱セット内容品	1	完了	
			巻きガーゼ(30cm×10m)	1	完了	
			滅菌ガーゼ(L/M)	各1	完了	M/Lを各1箱
			テープ	1箱	完了	
			絆創膏((F/L))	各1	完了	F/Lを各1箱
			包帯(L/M/S)	各1	完了	S/M/Lを各1箱
			三角巾	3	完了	
			脱脂綿	1包	完了	
			湿布薬	5箱	完了	
			冷却バック	1箱	完了	
			エタノール消毒綿	1袋	完了	
			外皮消毒剤	1箱	完了	
			クレベリン	3	完了	
			ディスポエプロン	1箱	完了	
			鎮痛解熱剤		大学備品	
			胃腸薬		大学備品	健康管理室にあり
			総合感冒薬		大学備品	
			うがい用イソジン(30ml)		大学備品	健康管理室に30あり
			手指消毒剤(500ml)		大学備品	健康管理室に8あり
			マスク		大学備品	健康管理室に600あり
			ペーパータオル		大学備品	健康管理室に5あり
			手袋		大学備品	健康管理室に300あり
			感染防護キット		大学備品	健康管理室に1あり
			傷洗浄用水(2Lペットボトル)			災害発生時に全体の備蓄品より支給する
			使い捨てカイロ			
			冬用防寒シート			
			懐中電灯			
ヘッドライト						
電池式卓上ライト						
予備電池						
フェイスシールド・スターターセット		完了	追加物品			

◆その他（災害時に使用可能な日常備品類リスト）

保管場所/管轄部署		物 品	数	備 考	
本館 B1F	倉庫2	教務	シーツ(古)	約30	
			ベッドスプレッド	約20	
			ビブス(ゼッケン)4色	各20	
		体育Ⅱ (菊田准教授)	テント(大)	1	体育Ⅱ(野外活動)用
			クイックテント(スクリーンハウス)	1	//
			簡易テント	3	//
			簡易コンロ	4	//
			寝袋	5	//
			ウォータークーラー	1	//
			クーラーボックス	1	//
	法人	木炭	2	//	
		ミネラルウォーター(500ml)【2015.3賞味期限】	1200	旧・備蓄品	
	空調機械室	管財	乾パン(100g)【2015.3賞味期限】	228	旧・備蓄品
工具			各種		
本館 1F	倉庫2	管財	工具	各種	
	倉庫3	教務	毛布(古)	約20	クリスマスの集い用
	職員控室	管財	シーツ	約30	
			ビニール袋	適宜	
	PS	管財	工具	各種	
			トイレットペーパー	適宜	
			タオルペーパー	適宜	
	講師室	教務	ラジオ	1	
			ウェットティッシュ	3~5	
			ティッシュ	3~5	
			水(310ml)	5ダース	
麦茶(2L)			6		
教務課	教務	ホィッスル	約20		
		洗面器	1		
2F	栄養実習室		なべ、皿など	多数	
2号館	地下倉庫	法人	ミネラルウォーター(500ml)【2015.3賞味期限】	192	旧・備蓄品
			乾パン(100g)【2015.3賞味期限】	48	旧・備蓄品
		管財	トイレットペーパー	適宜	
			タオルペーパー	適宜	